

第4回相模川大規模氾濫に関する 減災対策専門部会

●相模川大規模氾濫に関する減災対策専門部会

・実施日：平成29年5月31日（水）13：30～14：30

・場所：平塚市 3階 302会議室

・参加機関：平塚市長（代理）、藤沢市長（代理）、茅ヶ崎市長、寒川町長、大磯町長（代理）、神奈川県災害対策課長（代理）、神奈川県河川課長、横浜地方気象台長、国土交通省京浜河川事務所長

●開催状況



●議題

- (1) 相模川・金目川洪水対応訓練について
- (2) 京浜河川事務所管内及び他河川における主な取組内容について
- (3) 減災に係わる取組方針フォローアップの取りまとめ報告
- (4) 今後のスケジュールについて

●議事概要

- (1) 相模川・金目川洪水対応訓練の報告
 - ・相模川・金目川洪水対応訓練について報告した。
- (2) 京浜河川事務所管内及び他河川における主な取組内容の報告
 - ・京浜河川事務所管内及び他河川における主な取組内容を報告した。
- (3) 平成28年度の取組及び今後の取組の確認
 - ・「多摩川上流部の減災に係わる取組方針」について、平成28年度の取組状況及び今後の取組内容について報告し、確認した。

(4) 今後のスケジュールの確認

- ・今後のスケジュールについて報告し、確認した。

●意見等

<p>◇平塚市</p> <ul style="list-style-type: none">・首長が参加した情報伝達訓練を4月27日に実施した。この訓練では、気象台、県、国が一同に集まり、市と気象台・県・国の部屋を分けて、お互いが見えない中で実施できたこと、気象や河川の情報についてホットラインによる連絡体制を確認できたこと、さらに緊急速報メールの発信やリエゾンの派遣、タイムラインの検証を実施できたことが大変良かったと思う。・昨年の8月に避難勧告を出した際は、気象状況の見通しが持てないために発令の判断に悩んだが、今回の訓練において気象情報等の情報連絡体制が確認できたため、ありがたいと思う。・また、相模川の危険箇所とその水位について、今一番危険な箇所は寒川町側だとしても、その次に平塚市の右岸側が危険になることを把握した。避難勧告を出す際には、寒川町等の対応を確認して判断できることが分かり、有意義な訓練だったと思う。・課題点として、FAXによる河川情報が、県の土木事務所と国の相模出張所からの2系統で送られてくるが、経由してくるよりも、京浜河川事務所から一度に関係市町に送ってもらう方が早いと思う。・今年度は、家屋倒壊区域等の説明会等を実施する予定である。また、広域避難の計画についても少しずつ進めていきたいと思う。
<p>◇藤沢市</p> <ul style="list-style-type: none">・平成28年2月からスマートフォン版アプリ「ふじさわ街歩きナビ」の運用を開始した。これを活用して、災害情報の発信手段の多様化を進めている。現在のダウンロード件数は1万5000件であるが、多くの市民に日常的に活用してもらうように考えていく必要がある。・また、小冊子やリーフレットの活用に加え、リアルタイムな情報については、防災無線やメールマガジン、FMコミュニティラジオの電波を利用した防災ラジオも活用している。
<p>◇茅ヶ崎市</p> <ul style="list-style-type: none">・現在、3月に公表された相模川浸水想定区域図をもとにハザードマップの作成を進めており、秋ごろまでに全戸配布する予定である。・タイムラインについては、全庁的な見直しを行い、今年度中に庁内版のタイムラインを策定する予定である。
<p>◇寒川町</p> <ul style="list-style-type: none">・寒川町では、相模川水系の小出川や目久尻川への対応も必要であり、災害時には消防本部だけでなく、消防団や水防団の力も借りて警戒や情報連絡等の対応を行っている。・毎月第1日曜日を「家族防災会議の日」とし、防災行政無線で災害時の備えについて町内全域に防災行政無線を通じて放送し、家庭での備蓄や避難経路等について、家族で話し

てもらい取り組みを行っている。

- ・昨年度の台風9号では、目久尻川で避難判断水位に達した。さらに、氾濫危険水位に達する可能性があったことから避難勧告を発令し、避難場所を開設した。
- ・今年度は、5月に職員を対象とした災害危機管理研修を行い、災害対策本部の体制強化と被害予測の重要性を再認識した。また、新採用職員に対する水防研修を行った。
- ・ハード面では、昨年6月に寒川第2樋門を改築していただいたので、今後は上流部の寒川第1樋門について対応いただきたい。

◇大磯町

- ・防災ラジオについては、実際に検証した結果、高低差がある山間地域では導入が難しいことが分かった。防災ラジオはどのような活用方法があるのか情報をいただきたい。
- ・昨年8月の台風9号の際に、平塚市との協定に基づき大磯高校を避難所として開設し、連携協定等の取組が活かされた。また、昨年6月に横浜地方気象台の気象官と予報官に来ていただき、防災気象情報の利活用や土砂災害の図上訓練を行った。今年2月には、消防庁主催の災害伝承10年プロジェクトを活用して釜石市の観光ボランティアの方に来ていただき、東日本大震災の実体験を話していただく取り組みを行った。
- ・ハザードマップの作成については、相模川と金目川を同時に対応していく必要があると考えている。
- ・不動川では普段から河床が上がっているため、河床掘削を行っていただきたい。

◇神奈川県安全防災局

- ・昨年度は、自主防災組織リーダー等の講習会、来庁舎に対する風水害の疑似体験等を通じた普及活動を実施した。リーダー研修については、平成27年度に計24回の実施で550名の受講者であった。来庁舎については、疑似体験車も含み28年度に年間約4万人が来訪している。
- ・また、教育局が年1回県下の教職員を対象とした防災教育研修講座を開催しており、昨年は8月3日に377名が参加した。この講座では、気象台から専門家を招き公演も実施した。
- ・さらに、小学生を対象とした水防災教育として、安全防災局が毎年県内の小学4年生全員を対象にかながわキッズぼうさいカードを配布している。
- ・次年度の取り組みとして、上記の項目について継続的に進めていく。特に、説明会・講演会の実施については、リーダー研修に加え、新たにリーダー研修を行った者のレベルアップ講習や、若者や高齢者、女性等の防災講習を実施して更なる普及活動を充実させる予定である。
- ・県のたより6月号の第一面に、水害と土砂災害について掲載し県民の防災意識の向上を図っている。

◇神奈川県県土整備局

- ・県管理河川等について、大規模氾濫に関する協議会を5月11日に立ち上げ、県内6ブロックに分けて検討を行い、年内には県全体の今後5年の取組方針をまとめていきたいと考えている。
- ・3月に相模川・中津川・酒匂川で想定最大規模の浸水想定区域を公表したが、他河川についても進めており、今年度は特に流域に地下街がある河川を重点的に行う予定である。

平成31年度までには県管理河川全ての浸水想定区域図を公表できるように取組を進めている。

- ・相模川と酒匂川沿川の厚木市・小田原市で出水期までにタイムラインの作成・公表を進めている。
- ・今年度、5月28日に酒匂川で水防訓練を行ったが、年度は相模川で行う予定である。

◇横浜地方気象台

- ・出前講座や講習会を通じて、知識の普及や防災気象情報の利活用を説明した。その中で昨年度は、危険度の色分け表示や警報級の可能性の情報提供を行った。
- ・気象警報級を5月17日からホームページで公開し、危険度の色分け表示情報を7月上旬から提供開始予定である。
- ・今年度も引き続き、講演会や出前講座への協力や講師の派遣を行っていく。